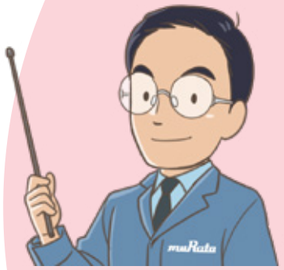
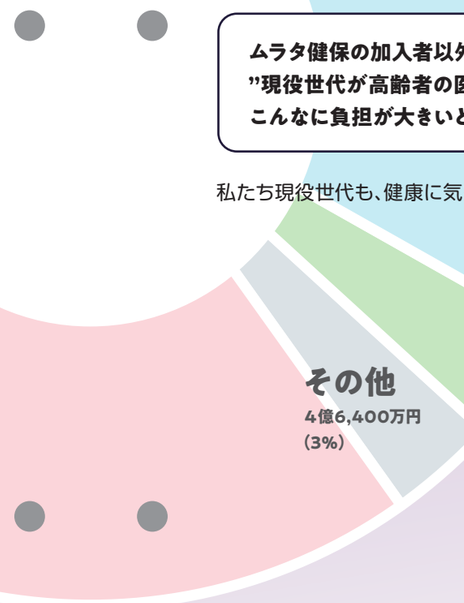
毎月、給与から引かれている健康保険料。
そんなに病気にもならないのに、保険料高いなぁ・・・って思っています。

ムラタ健保のおかねどのように使われているの？

通院・入院したときに「高額療養費制度があって助かった！」などのお声もいただきますが、普段はあまり恩恵を受けていない、と感じる方も多いかと思います。
みなさんからお預かりしている大切な保険料。
どのくらい、どのような目的に使われているか、2022年度の決算から抜き出して、ご説明します。





60% 保険給付費 91億500万円

支出の約6割という大部分を占めるのは、通院・入院などでかかる医療機関での医療費や調剤薬局への薬代の支払いに使われています。また、病欠時の生活保障（傷病手当金）や、産前産後休業時の生活保障（出産手当金）などの給付金もここに含まれ、私たち加入者の**「困ったとき」を支えるお金**が『保険給付費』です。

**私たちが病院の窓口で3割支払っている、残りの7割部分ですね！
でも国や市町村のお金（公費）で受けられる治療もありますよね？**

新型コロナウイルスの治療は公費で受けることができたのは報道等で記憶に新しいかと思います。また『子ども医療』など、自己負担が少なく受診できるものもありますね。それらの費用は受診者の自己負担分について公費が充てられますが、残りの7割部分は一般の治療と同じく健保組合が負担しています。

**うちの子どももよく病気をするので、病院の窓口負担ゼロは助かる！と思っていましたが、
大部分はムラタ健保のお金・・・つまりは私たちの保険料だったんですね！**

健康保険料

健康保険組合は、保険料率やその加入者と会社の拠出割合や、付加給付などの給付制度も独自に決めて充実させることができます。

現在のムラタ健保は健全な運営ができており、国民健康保険や協会けんぽ（中小の企業が加入）などに比べて給付制度は充実し、他の健康保険組合に比べても保険料率は低く、個人の負担も低く設定することができています。

ムラタ健保の保険料率 **8.2%**
【拠出割合】会社：被保険者＝4.726%：3.474%）
全国の健康保険組合の平均保険料率：9.27%

他健保より低い保険料率

33% 納付金 50億670万円

支出の約４割を占める『納付金』は、「後期高齢者支援金」と「前期高齢者納付金」として**全国の高齢者医療制度の財源**として利用されるお金です。

「後期高齢者支援金」とは

75歳以上（後期高齢者）の医療に充当される費用で、健保組合が支援金として拠出し、大部分を現役世代で支えています。今後ますますの高齢化によって、現役世代の負担は増え続けると見込まれます。

「前期高齢者納付金」とは

前期高齢者（65歳以上75歳未満）の方は、定年退職などで会社を退職した後に国民健康保険（市町村国保）へ加入することが多く、そのため国保における高齢者医療費負担は他の健保組合より大きくなっています。
この負担の不均衡を解消するため、健保組合は一定割合を拠出しています。

**ムラタ健保の加入者以外のために拠出しているものがこんなにあるんですね！
”現役世代が高齢者の医療を支えている”のはなんとなく知っていたけど、
こんなに負担が大きいとは・・・これからますます高齢化が進むのに・・・**

私たち現役世代も、健康に気を付けて長生きしなくては、と思いますね。

4% 保健事業費 5億8,500万円

疾病予防、健康増進・健康啓発のための事業を行う費用です。
会社で行う従業員の健診費用と扶養家族の健診費用が大部分を占め、その他がん検診・歯科健診、健保の行う生活習慣病の発症予防・重症化予防のための支援プログラム、家庭常備薬の斡旋、インフルエンザ予防接種補助、Kencomの提供など、加入者の疾病予防・健康増進を支援する事業に使われます。
この「Fine」も『保健事業費』で発行されています。

**私もインフルエンザの補助や、歯科健診などを利用しています。
ムラタ健保は事業メニューが沢山あって、
お金かかってるよなーって思っていましたが、
全体で見るとこのくらいの支出なんですね。**

保健事業は健保組合が独自に企画・実施できる事業です。
人生100年時代と言われる中、ムラタグループは2024年4月から定年が65歳に延長され、健康寿命の延伸が望まれています。
加入者のみなさんが、健康な方はより健康に、少し体の変調を感じる方は早めに調子を整え、活き活きと元気に仕事や生活ができるように、ムラタ健保はこれからも保健事業に積極的に取り組みます。ぜひ保健事業をご活用ください！！